

平成22年度「福井新元気宣言」推進に係る施策の実施結果 (平成23年3月末現在)

「福井新元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成22年4月に掲げた施策・事業の実施結果について、次のとおり報告します。

平成23年3月

教育長 広部 正 紘

I 総括コメント

1 総合的な学力の向上

- ・ 「元気福井っ子新笑顔プラン」に基づき、小学校1、2年への非常勤講師の配置と中学校2、3年の少人数学級編制を拡充しました。
- ・ 小・中学校においては、授業改善について各学校の中核となる教員の育成や授業名人の技の継承など、学校の授業を基礎に教員の指導力向上を図りました。
- ・ 県内高校生の学力分析結果に基づく教材の作成のほか、教員の予備校への派遣や公開授業等を通じた教員の指導力向上等、各高校の実態に即した学力向上施策を進めました。
- ・ サイエンス教育については、はやぶさプロジェクトマネージャ 川口淳一郎氏ほか(独)宇宙航空研究開発機構の技術者等を招いて開催した「ふくいサイエンスフォーラム」のほか、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」や「ふくい理数グランプリ」、「ふくいサイエンス寺子屋」など子どもたちの理数系科目への興味・関心を高めるための事業を引き続き実施しました。
- ・ 高校生の就職支援については、各高校が就職支援コーディネーターと協力して企業訪問等を行うことにより、求人確保や卒業生の就業状況等の把握を行い、就職内定率の向上や離職率の低下につなげました。

2 魅力ある学校の在り方

- ・ 県立高校の再編整備については、平成23年4月の奥越明成高校の開校に向け、カリキュラムの編成や必要な施設・設備の整備などを行いました。
また、勝山南高校の敷地等を活用した奥越地区特別支援学校(仮称)の整備については、平成25年4月の開校を目指して、校舎等の設計に着手しました。

3 いつでも身近に福井の文化

- ・ 白川静博士の生誕百年を記念して、記念フォーラムや漢字シンポジウム、漢字スタジアムを開催し、「文字の国 福井」を全国にアピールしました。
また、平成23年度から白川文字学を活用した漢字学習を全ての小学校の授業で実施するための準備を進めるとともに、漢字解説本「白川静博士の漢字の世界へ」の全国書店での販売を行いました。
- ・ 県下全小学校の5年生児童が一流のオーケストラの演奏等を鑑賞する「ふれあい文化子どもスクール」等、子どもたちが本物の芸術・文化に直接触れる機会を充実しました。

5 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援

- ・ 平成30年に開催予定の第73回国民体育大会について、平成22年8月の「第73回国民体育大会準備委員会」をはじめ、開催地選択競技の選定や競技施設基準の作成、会場地市町の選定等具体的な検討を行う体制づくりを進めました。

II 施策項目に係る結果について

- ・ 別紙「平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)」のとおり

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>1 未来を託す教育・親しみ楽しむ県民文化</p> <p>◇ 教育力の向上と文化の創造</p> <p>・文化による暮らしの質の向上</p> <p>「教育・文化ふくい創造会議」の第三次提言の具体化を図るため、部局横断型の「福井県文化創造推進会議」により、文化関連施策の集約や新たな施策の立案を行い、全庁的に総合的な施策を推進し、暮らしの質の向上につなげます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>4月に副知事を会長とし、各部企画幹で構成する「福井県文化創造推進会議」を設置し、教育庁と知事部局が一体となり、教育・文化ふくい創造会議第三次提言の具体化を推進するとともに、文化に関する新たな連携施策の検討を進めました。</p> <p>(会議の開催状況(計3回(4月、7月、12月)))</p> <p>検討項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三次提言に関する各部局における取組み ・新たな提案・連携可能な取組み ・平成23年度提言に資する新たな施策 	
<p>・福井県教育振興基本計画の策定</p> <p>教育・文化ふくい創造会議の集大成として、これまでの提言を基に、本県がこれから進めるべき教育施策を体系的に示した福井県教育振興基本計画を策定します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>福井県版の教育振興基本計画の策定については、教育・文化ふくい創造会議の提言や福井県民の将来ビジョンを基本に置きながら、現在作業を進めています。</p> <p>これから、市町教育委員会や学校関係者、保護者等広く意見をいただきながら、新年度の早い時期に策定したいと考えています。</p>	
<p>◇ 総合的な学力の向上</p> <p>・「元気福井っ子新笑顔プラン」の推進</p> <p>平成20年度に定めた県独自の学級編制基準「元気福井っ子新笑顔プラン」を引き続き推進し、全国トップレベルのきめ細かな教育を行う体制を整備して、子どもたちの学力のさらなる向上を図ります。</p> <p>また、国に対して、同プランをモデルに学級編制基準の見直しを行うよう働きかけます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「新笑顔プラン」に基づき、中学校2、3年生の学級編制基準を34人から33人に引き下げるとともに、小学校1、2年生の33人以上の学級にも非常勤講師を配置するなど、本県独自の少人数教育を拡充しました。</p> <p>また、国に対して福井県をモデルに学級編制基準の見直しを行うよう働きかけました。</p> <p>(小学校1、2年 学校生活サポート非常勤講師の配置(33人以上学級) 小学校3～4年 ティーム・ティーチングや少人数指導の強化 小学校5、6年 少人数学級編制を実施 36人 中学校1年 " 30人 中学校2、3年 " 33人)</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・小中学生の学力向上の推進</p> <p>児童・生徒の課題を解決する力や、自ら意欲的に学習する力を伸ばすため、「元気ふくいっ子学力向上センター」を中心に、各小中学校の学力向上プランの推進を支援します。</p> <p>また、児童・生徒の学力の向上のためには、教員の資質・能力の向上が不可欠であることから、授業の中で学校の中核となる教員の育成や授業名人の技の継承など、授業をベースにした指導力向上策を進めます。</p> <p>22年度から抽出方式で実施される全国学力・学習状況調査について、市町教育委員会と連携して、これまでどおり該当学年全員を対象に実施し、その分析結果を授業の改善に役立てます。</p>		<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>各小・中学校において学力向上プランを作成し、これに基づき学習指導を行ったほか、児童生徒の読解力や応用力を伸ばすための指導事例集の配布や、学校の中核となる教員の育成(27小中学校)、授業名人の技の継承(5グループ)など、授業をベースにした指導力向上策を進めました。</p> <p>また、抽出方式で実施された全国学力・学習状況調査について、市町教育委員会と連携して、これまでどおり該当学年全員を対象に実施し、その分析結果を指導事例集や誤答分析資料集として取りまとめ、全小中学校でそれぞれ授業改善を進めました。</p>	
<p>〔県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合 (平成21年度 小学校77.2% 中学校57.8%) 小学校 80% 中学校 60%〕</p>		<p>〔県学力調査で「授業が分かる」と答える児童・生徒の割合 小学校76.8% 中学校58.3%〕</p>	
<p>・高校生の学力向上の推進</p> <p>学力向上推進委員会の学力分析に基づいた教材作成を行うとともに、授業研究や教員向け指導書の作成等により教員の指導力向上を図ります。</p> <p>併せて、県立高校30校が、普通科系を対象とした「弱点克服特別プログラム」や、職業系を対象とした「企業や地域等との連携講座」など、各々の実態に応じて独自に企画した学力向上事業を行い、高校生の総合的な学力向上を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内高校生の学力分析結果に基づき、大学入試センター試験対策や基礎学力充実のための教材を作成し、各校における教科指導に活用しました。また、10名の教員を予備校に派遣したほか、公開授業、実験研修会等を県下で25回開催するなど教員の指導力向上を図りました。さらに、各校が独自に、または連携して企画する総合的な学力向上に向けた取組みを支援しました。</p> <p>この結果、2011年度大学入試センター試験の地理B、物理Iにおいて、受験者の平均点の全国順位が上昇するなどの改善が見られました。</p>	
<p>・新学習指導要領への対応</p> <p>平成23年度からの小学校の新学習指導要領完全実施に向けて、教科用図書の採択や活用、学習評価の在り方について、市町教育委員会等へ適切な指導や支援を行うなどの準備を進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>8月および12月に教育課程説明会を開催するなど、新しい教科用図書の採択や活用、学習評価の在り方について、市町教育委員会等へ適切な指導や支援を行いました。</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・学力向上の推進体制の整備</p> <p>庁内の各組織や機関が有する知識や人材、施設などを教育現場に提供し、学力向上施策をさらに効果的に行うことができるよう、部局横断型の学力・体力向上推進会議を開催し、全国上位にある本県の児童生徒の学力の維持向上を支援します。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>全校トップクラスの学力・体力の維持・向上を図るため、庁内関係部局が有する教育資源の活用について検討しました。また、幼児教育の課題やあり方について、総務部や健康福祉部と連携し、保育園や幼稚園、小学校等関係者や有識者から意見を聞きました。これからも、本県の「総合的な学力」の向上のための連携策について検討を進めていきます。</p>	
<p>・「福井の教育」の発信</p> <p>白川文字学を活用した漢字教育など優れた本県の教育施策を全国に広め、地域間で切磋琢磨し、さらなる向上につなげる機運を醸成します。また、課題解決プロジェクトチームを編成して、メディアや出版社、学習塾等へのアプローチや情報提供等を機動的に行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>本県は全国の学力・体力テストで続けて好成績を収めていることから、近年文武両道の教育県としての評価が定着し、全国の自治体や教育関係者等100件を超える視察に応じています。また、メディア等にも積極的に協力し、教育誌をはじめとした雑誌等に本県の特徴ある教育施策が掲載されました。さらに、大手出版社の協力により、県教育委員会編集による「白川文字学」の漢字解説本が全国書店で販売されることになりました。</p>	
<p>〔白川文字学等「福井県の教育」の雑誌等への掲載・書籍の発行件数 5件〕</p>		<p>〔白川文字学等「福井県の教育」の雑誌等への掲載・書籍の発行件数 5件〕</p>	
<p>◇ ふるさと教育の推進</p> <p>・ふるさと教育の推進</p> <p>感謝する心や感動する心、思いやる心、郷土を愛する心など子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、小学校における2泊3日以上集団宿泊体験などの自然体験活動の支援を充実します。また、「県立こども歴史文化館」を拠点として、次代を担う子どもたちが、郷土の先人・達人の生き方や業績などを学び、本県の歴史文化に親しむ、ふるさと学習を推進します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>小学校において2泊3日以上集団宿泊体験を行った18校に対して助成するなど自然体験活動を支援するとともに、2泊3日以上集団宿泊体験の実践事例のリーフレットを作成し、各小学校に配付して普及を図りました。また、郷土に関する学習の実践事例を取りまとめ、県のホームページに掲載し広く周知しました。</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 外国語(英語)教育</p> <p>・小学校での外国語(英語)指導</p> <p>平成23年度からの小学校高学年での外国語活動の本格的導入に向けて、英語活動を行う時間数を増やします。また、小学校の教員を対象にした英語の指導者養成研修会を開催し、教員の指導力向上に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>平成23年度からの外国語(英語)活動の本格実施に向けて、各小学校における英語活動を実施時間数を増やしました。また、小学生への外国語指導について小学校教員を対象とした研修会を開催し、指導力強化を図りました。</p>	
<p>〔英語活動の実施時間数 (平成21年度 年間28時間) 年間30時間〕</p>		<p>〔英語活動の実施時間数 年間34時間〕</p>	
<p>・外国語指導助手等を活用した外国語指導の充実</p> <p>夏季休業期間中に外国語指導助手(ALT)を活用して高校生英語キャンプを実施し、高校生の英語コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>また、英語教員とALTとの教授法の共有化や、NHK番組を活用した指導法の研究、英語教員を対象とした集中セミナーを通して、英語教員の指導力の向上と授業改善に努めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>中学校教育研究会英語部会において”コミュニケーション能力”の強化を指導するとともに、新たに指導案や教材を作成し、教育研究所の教材研究支援システムに登載するなど、英会話活動の充実を図りました。</p> <p>また、外国語指導助手(ALT)の研修に英語担当教員も参加して互いに研究しあうなど、研修内容の充実を図りました。</p> <p>昨年8月に、高校生とともにALTや留学生も参加する英語キャンプを開催し、実践的なコミュニケーションに取り組みせたほか、英語教員集中セミナーを開催し、授業改善や指導力強化を図りました。また、NHKと連携し、授業での英語番組やDVDを活用した英語学習の充実に取り組みました。</p>	
<p>〔授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) (平成21年度49.0%) 50.0%〕</p>		<p>〔授業時間の半分以上英語を使用する学校の割合(中学校3年生) 50.0%〕</p>	
<p>◇ サイエンス(理科・算数・数学)教育</p> <p>・分かりやすい理科授業</p> <p>小学校の理科授業で観察・実験を補助する「理科支援員」の配置や専門的な内容を分かりやすく教える特別講師の派遣を拡充し、分かりやすい理科授業を広く行い、理科授業の充実を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>理科支援員の配置により、実験等を多く取り入れた理科授業の実施し、「実験が増えて理科が好きになった」、「教科書に書いてある意味がよくわかった」など、理科に対する児童の興味・関心を高めることができました。</p>	
<p>〔「理科支援員」の活動学校数 (平成21年度 61校) 70校〕</p>		<p>〔「理科支援員」の活動学校数 88校〕</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「ふくいサイエンス寺子屋」の開催 放課後や長期休業中等に、公民館や児童館など子どもが集まる場所で、科学実験等を行う「ふくいサイエンス寺子屋」を開催し、理科や算数・数学に対する興味・関心を高めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>公民館や児童館など身近な場所において学校で学習しない内容を体験できることから開催希望が多く、目標を上回って開催しました。</p>	
<p>〔「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 (平成21年度 115か所) 120か所〕</p>		<p>〔「ふくいサイエンス寺子屋」の開催数 138か所〕</p>	
<p>・世界に通じる知的探求心の育成 世界の最先端科学技術を触れ学ぶ「スーパーサイエンスフォーラム」や理科・数学の応用力や実験力を競う「ふくい理数グランプリ」の開催、「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の授与等により、サイエンスに対する知的探求心をさらに育成するとともに、国際科学コンテスト等への参加者数が増えるよう新たな仕組みを検討します。 また、県内外の大学や企業、民間団体等との連携を図り、本県の中・高校生が研究機関での研修等に参加する機会をつくりまします。</p>		<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>本年1月の小惑星探査機はやぶさカプセル展示と合わせて「スーパーサイエンスフォーラム」を開催し、(独)宇宙航空研究開発機構はやぶさプロジェクトマネージャ 川口淳一郎氏、ノンフィクション作家 山根一真氏によるトークセッションを実施しました。また、併せて、第2回「南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞」の授賞式を行い、優秀な成績を収めた4個人、4グループを表彰しました。 県内の中・高校生を対象に開催した「ふくい理数グランプリ」の参加者数は、昨年を上回りましたが目標には達しませんでした。 一方で、全国規模のコンテストへの参加者は大幅に増加し、うち1人が全国物理コンテストで銅賞を受賞しました。</p>	
<p>〔全国・世界規模の科学コンテストへの参加者数 (平成21年度 37人) 60人〕</p> <p>〔「ふくい理数グランプリ」への参加者数 (平成21年度 302人) 350人〕</p>		<p>〔全国・世界規模の科学コンテストへの参加者数 100人〕</p> <p>〔「ふくい理数グランプリ」への参加者数 328人〕</p>	
<p>◇ 職業意識の醸成 ・産業人材の育成 職業系高校と公設試験研究機関や企業・関係機関等との連携を進め、企業見学会や技術者による技術指導など実践的な産業人材育成プログラムを進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>キャリア教育のために有用な関係施設の見学や外部講師による講演、企業と連携した商品開発への取組みなどにより、就労意識の高揚や進路選択に向けた意識付け、情報収集が図られました。</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 職業意識の醸成</p> <p>・ 高校生に対する就職支援 高校生の就職内定率の向上を図るため、教員や就職支援コーディネーターによる企業訪問や就業体験を実施するとともに、就職した卒業生に対してきめ細かなフォローアップを行い、離職率の低下を図ります。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>就業体験や就職内定者に対するビジネススキルアップセミナーの実施により、高校生の就労意識の高揚を図りました。また、教員や就職支援コーディネーターによるきめ細かな就職相談の実施や企業への求人確保の要請により就職内定率が向上しました。さらに、就職応募前職場見学の積極的な実施や離職防止のための企業訪問の実施等により、就職3年後の離職率が初めて40%を下回りました。</p>	
<p>〔 高校生の就職3年後の離職率 (平成21年度 40.9%) 40%未満 〕</p>		<p>〔 平成19年3月卒業者の3年後離職率(平成22年度) 39.4% 〕</p>	
<p>◇ 笑顔で登校できる学校づくり</p> <p>・ 課題をもつ子どもたちへの適切な対応 すべての児童生徒が笑顔で登校できる学校づくりを図るため、専門家や保護者等の意見を聞きながら、不登校の未然防止と不登校児童生徒の早期学校復帰等を進めるための指針を策定します。 また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを定時制高校に、登校支援員を中学校に新たに配置し、心の悩みの相談や家庭への働きかけを進めるとともに、福祉や雇用、教育の相談機関やフリースクールとの連携を強化します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>国立教育政策研究所や市町と連携した不登校対策の強化により、8月に「県不登校対策指針」を策定し、公立学校の全ての教員に未然防止を重点とした対策を徹底しました。また、小・中学校において、「欠席状況シート」により児童・生徒の欠席の状況を早期に把握し、各学校・教育委員会で情報を共有する体制を整え、学校ぐるみでの組織的な対応を行いました。</p>	
<p>〔 不登校児童・生徒数 (平成21年度 小学校160校、中学校630人) 小学校 140人、中学校 600人 〕</p> <p>〔 スクールカウンセラー活動校数 (平成21年度 小学校21校、中学校74校) 小学校 21校、中学校 74校、高等学校 7校 〕</p>		<p>〔 不登校児童・生徒数(公立のみ) 1月末現在 小学校140人 中学校600人 3月末見込 小学校140人 中学校600人 ※H22年度については、23年5月に調査(23年8月ころ公表) 〕</p> <p>〔 スクールカウンセラー活動校数 小学校 21校 中学校 74校 (全公立中学校) 高校(定時制) 7校 〕</p>	
<p>◇ 魅力ある学校の在り方</p> <p>・ 県立高校の再編整備 生徒一人ひとりにとって最良の教育環境を整備するため、県立高等学校再編整備計画に沿って、県立高校の再編整備を進めます。 また、勝山南高校の敷地等を活用して、奥越地区特別支援学校(仮称)の整備を進めます。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>平成23年4月の奥越明成高校の開校に向けて、校名・校章の選定や魅力あるカリキュラムの編成を行い、通学バスの利便性の向上、学校設備の充実などを行いました。また、奥越地区特別支援学校(仮称)については、平成25年4月の開校を目指して校舎等の設計を行っています。</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ いつでも身近に福井の文化</p> <p>・「白川文字学」の普及</p> <p>白川静博士の生誕百年を記念して、漢字をテーマにしたシンポジウム等を開催するなど、博士の偉業を改めて顕彰するとともに、「文字の国 福井」を全国に発信します。</p> <p>また、平成23年度からすべての小学校で「白川文字学」を活用した授業を行えるよう、これまでの漢字学習を総括し、本県独自の漢字学習カリキュラムを作成します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>白川静博士の生誕百年の記念事業として、昨年4月24日に記念フォーラムを、7月29・30日には漢字シンポジウム等を開催し、白川博士の偉業を改めて顕彰するとともに、「文字の国 福井」を全国に発信しました。</p> <p>また、本年4月から白川文字学を活用した本県独自の漢字学習を全ての小学校の授業に取り入れられるように県内61校で漢字学習カリキュラムの実践研究を行いました。</p> <p>なお、大手出版社の協力により、漢字解説本の改訂版を2月25日から全国書店で販売することができました。</p>	
<p>・子どもの読書活動の推進</p> <p>国民読書年(2010年)をアピールするための児童向け絵本の原画展や講演会の開催とともに、県内公民館や市町図書館との連携によるキャンペーンの実施など、読書に対する県民の意識を高めます。</p> <p>また、PTA等関係団体と連携し、家庭等にある図書の寄贈や公立図書館との連携を深め、学校図書館の充実を図ります。</p> <p>なお、文字・活字文化の振興という観点から、学校においてNIEを継続的に進めます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「国民読書年」に合わせ、読書に対する意識を高めるため、長野ヒデ子氏の絵本原画展と講演会の開催や読書ノート「どくしょのきろく」の配布、県内公共図書館の連携による図書館利用キャンペーンの実施などを行いました。</p> <p>また、読み聞かせ相談会の実施や県内2か所での講演会の開催により、読み聞かせの推進を図りました。</p> <p>24年7月に本県で全国大会が開催されるNIEについては、実践指定校、奨励校それぞれ5校を中心に、先進的な実践活動を進めています。</p>	
<p>〔「県立図書館の図書貸出冊数(平成21年度 89万冊) 90万冊〕</p>		<p>〔県立図書館の図書貸出冊数 90万8千冊〕</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・子どもたちが本物の芸術・文化に直接触れる機会の充実</p> <p>県立音楽堂や学校などで、子どもたちが第一級の芸術・文化に直接触れることができるよう、音楽や絵画等の鑑賞機会を拡充し、気軽に芸術・文化に親しみ楽しめる機会を増やします。</p> <p>第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 65,000人</p> <p>平成21年度 60,856人 ほか文化庁緊急経済対策事業分14,082人</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>第一級の芸術・文化を直接、鑑賞・体験する子どもの数は、65,182人となり、目標を上回りました。 平成23年度においても、子どもたちが第一級の芸術・文化に触れる機会の充実に努めていきます。</p> <p>第一級の芸術文化を直接体験する子どもの数 65,182人</p> <p><内訳></p> <p>(1) 学校等において芸術文化を鑑賞・体験 ふれあい文化子どもスクール、子ども鑑賞シート、ちびっこコンサート、ふれあいミュージアムほか 33,896人</p> <p>(2) 地域において芸術文化を鑑賞・体験 伝統文化子ども教室、ヤングアートフェスティバルほか 19,766人</p> <p>(3) 活動内容を発表する機会 ふくい子ども文化祭、県高等学校総合文化祭 9,229人</p> <p>(4) 芸術文化のレベルアップを図る機会 ヤング・アート・キャンプ、ハーモニーセミナー 2,291人</p>	
<p>・文化財の調査と指定の推進</p> <p>県内の近代和風建築や白山信仰関係文書の詳細な調査と併せ、国・県指定文化財の候補である福井・坂井・奥越地区の庭園や越前焼の窯跡などの現地調査に着手するなど、文化財の歴史的・学術的な価値を明らかにします。また、その保存と活用のため、国に対して重要文化財等の指定を積極的に働きかけます。</p> <p>平成21年度における指定等件数 11件 史跡(追加指定) 1件 国選択無形民俗文化財 1件 国登録有形文化財 3件 県指定文化財 6件</p> <p>文化財の指定・登録等 15件 【チャレンジ目標】 20件</p>		<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>近代和風建築の現地調査を継続して進め、平面図作成に着手するとともに、白山信仰関係文書では滝谷寺文書群の詳細調査を実施しました。 また、有形文化財や庭園など県指定等に向けた現地調査および越前焼の歴史的価値を明らかにするための窯跡分布調査を文化財に関わる専門職員で構成する文化財指定等推進チームが実施したほか、国指定候補となる文化財については、文化庁に対して、保存修理事業や発掘調査の進捗状況、実施結果などの情報提供を積極的に行いました。 引き続き、文化財指定に必要な調査を計画的に実施し、文化財の価値を明らかにしながら、文化財の新規指定・登録等を進めていきます。</p> <p>平成22年度における指定等件数 32件 重要文化財 1件 国登録有形文化財 23件 県指定文化財 8件</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「平成ふくい風土記」運動の推進 福井県の日々の暮らしや景観の中にある身近な文化を住民自らが資料として後世に残す「平成ふくい風土記」運動を推進するため、刊行物等の活動成果を分かりやすく分野ごとに情報を収集・整理し、ホームページ等により県民に公開します。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新聞記事や図書館が保有する蔵書などから「平成のふくい」を紹介した刊行物等に関する情報を分野（自然・歴史・生活・産業・未来）ごとに収集・整理し、台帳化するとともにホームページ「福井の文化財」で公開しました。</p> <p>また、越前の正月・小正月行事のうち、「鯖江のオコナイ」および「勝山左義長」について、映像記録を作成しました。</p>	
<p>・「ふくい民俗芸能群」の認定 個々の祭りや民俗芸能、習俗を次世代に守り伝えるため、その特徴ごとにまとまり（群）として捉えた「ふくい民俗芸能群」への認定を促進し、その価値を顕在化するとともに、県内外へ情報発信することにより、伝統文化の保存・伝承を図ります。</p> <p>（民俗芸能群への新規認定数 （平成21年度 10件） 10件）</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>個々の民俗芸能等の価値を明らかにするため、ふくい無形民俗文化財保存活用推進会が未指定文化財の群認定を引き続き行いました。</p> <p>また、認定された民俗芸能等については、ホームページ「福井の文化財」においてその由来や概要を紹介するとともに、越前の正月・小正月行事（鯖江のオコナイ、勝山左義長）に関する映像記録作成などの支援を行いました。</p> <p>（民俗芸能等群（新規認定 10件） ①越前の正月・小正月行事 ⑤厄除け行事・お祓いの芸能 ②若狭の正月・小正月行事 ⑥港町の祭りと山車 ③ふくいの盆行事 ⑦舞楽法要・神楽 ④ふくいの農耕習俗）</p>	
<p>◇ 「みんながプレーヤー」と「世界を夢見るアスリート」の応援 ・第73回国民体育大会の開催に向けた準備 「第73回国民体育大会準備委員会（仮称）を設置するとともに、市町や競技団体の意見を聞きながら、競技別会場の選定など開催準備を進めます。</p>		<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>昨年8月30日に「第73回国民体育大会福井県準備委員会」を設置し、10月の常任委員会において、大会開催、会場地市町選定、競技施設整備、競技役員等養成、広報などの基本方針を策定するとともに、「総務企画」、「施設整備」、「競技運営」、「広報・県民活動」の4つの検討会において、会場地市町の選定、競技施設基準の作成、開催地選択競技の選定、広報や県民運動の進め方等について、具体的な検討を行いました。</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>・「健民スポーツ運動」の推進 県民スポーツ祭における冬季間開催種目の充実や、総合型地域スポーツクラブでの交流の促進など、年間を通じて県民の誰もがスポーツやエクササイズを生活に取り入れる「健民スポーツ運動」を推進します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭は、実施競技種目や開催時期の見直し（部門の新設、冬季開催種目の増加等）などにより、参加者数が約1,500人増加しました。 また、総合型地域スポーツクラブは、平成22年度に2市町で2クラブ創設され、平成23年度には県内12市町で20クラブが活動します。</p>	
<p>〔 県民スポーツ祭参加者数 29,000人 (平成21年度 28,499人) 総合型地域スポーツクラブ総数 20クラブ (平成21年度 18クラブ) 〕</p>		<p>〔 県民スポーツ祭参加者数 30,480人 総合型地域スポーツクラブ総数 20クラブ 〕</p>	
<p>2 女性活躍社会 ◇ 日本一の子育て応援システム ・「放課後子どもクラブ」への支援 地域の实情に応じて「放課後子どもクラブ」を実施し、子どもの安全・安心で健やかな活動場所を確保します。また、市町に対して、小学校6年生までの希望者全員が入所できるよう空き教室を活用した「放課後子どもクラブ」の新設・拡充を働きかけます。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>学校の空き教室等を利用した「放課後子どもクラブ」設置を県独自に支援するなど、市町の負担の軽減を図りました。 こうした支援の結果、県内全ての小学校区で「放課後子どもクラブ」が実施されました。 さらに、平成23年度からは、約9割（約180校区）で6年生までの児童を受け入れる見込みです。</p>	
<p>〔 放課後子どもクラブ実施校区数 (平成22年度当初 203校区中194校区) 203校区203校区(9校区の増) 〕</p>		<p>〔 放課後子どもクラブ実施校区数 203校区中203校区(9校区の増) 〕</p>	
<p>3 日本一の安全・安心（治安回復から治安向上へ） ◇ 「安全・安心ふくい」実現プランの実行 ・安全教育の徹底と安全確保活動の支援 教職員等に対する防犯教育講習会の開催や青色灯をつけた自動車を利用した巡回パトロールによる防犯体制および見守り活動の充実など、登下校時を含めた子どもの安全確保活動を支援します。</p>		<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中・高校において、より実践的な防犯教育が実施できるよう各学校の安全管理・安全教育責任者や保護者、地域関係団体を対象に防犯教室講習会を開催し、学校・家庭・地域の連携強化に対する意識を向上させました。 また、すべての中学校区において青色灯を付けた自動車による学校周辺や通学路等の巡回指導を実施し、見守り活動の充実に努めました。</p>	
		<p>〔 主な安全活動支援 ・青色灯自動車による巡回パトロール 74中学校区で実施(週1回) 〕</p>	

平成22年度 施策項目に係る実施結果報告(教育庁)

(平成23年3月末現在)

【取組結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標達成にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)

役職	教育長	氏名	広部正紘
項目		実施結果	
<p>◇ 自然災害に対する安全・安心の確保</p> <p>・公立学校の耐震化の促進</p> <p>学校施設は、児童・生徒の学習の場であり、地域住民の応急避難場所としての役割をも果たすことから、県内の小・中学校の耐震化を前倒して進めます。特に、地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高いIs値0.3未満の施設については、改築や大規模改修を行うものを除き、本年度内に完了を目指します。</p>		<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>耐震補強工事については、小・中学校施設の耐震化促進を支援するための県独自の補助制度により、市町の負担軽減を図りました。今後とも、市町への働きかけを一層強化し、耐震化を促進していきます。</p>	
<p>〔耐震補強工事 26棟 (平成21年度 123棟(繰越を含む))〕</p>		<p>〔耐震補強工事 47棟(23年度への繰越を含む)〕</p>	
<p>4 力強いプライドの農林水産業</p> <p>◇ 食育・地産地消の推進と食の安全</p> <p>・おいしい福井の学校給食の実現</p> <p>学校給食会や農林水産部との連携により、地場産農水産物を活用した食品開発を行い、学校給食に対する子どもたちの興味関心を高めます。</p> <p>また、県内の8共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携し、おいしい学校給食の提供や食育活動を行います。</p>		<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内の8共同調理場において、食育ボランティアと栄養教諭・学校栄養職員が連携した学校給食の提供や食育活動を行いました。また、学校給食調理コンテストや児童・生徒が主体的に取り組む食育実践活動の発表会等、児童・生徒や保護者の学校給食への関心を高める活動を行いました。</p>	
<p>〔地場産学校給食の実施校数 (平成21年度 285校) 289校 学校給食が好きな子どもの割合 (平成21年度 55.6%) 80.0% 朝食欠食率 (平成21年度 0.4%) 0.3%〕</p>		<p>〔地場産学校給食の実施校数 289校 学校給食が好きな子どもの割合 83.1% 朝食欠食率 0.3%〕</p>	